滋賀短期大学研究紀要
第 47 号 Vol.2　2021 年度

# シンガポール就学前教育改革の現状と課題についての考察

## ――教育課程政策の理想と幼稚園でのカリキュラム編成の実際に注目して――

李　　霞 ＊
滋賀短期大学　幼児教育保育学科

Consideration on the Current Status and Challenges of Preschool Education Reform in Singapore：Focusing on the Ideal of Curriculum Policy and the Actual Curriculum Organization in Kindergarten

Xia　LI
Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

抄録：今日のシンガポールにおける就学前教育改革の課題を探る一歩として，本研究では，就学前教育改革の理想が教育現場でのカリキュラムの編成にどう反映されているのかを究明することを目的とし，教育課程政策をはじめ文献調査及びフィールド調査を行った。その結果，教育課程政策において子どもたちが学習活動の主体であるという考え方は，就学前教育現場である幼稚園のカリキュラム編成にも反映されているものの，知育重視の教育活動に加え，教師による望ましい価値の説教が進められるなど，現場では従来の詰め込み教育の弊害が依然として存在していることが判明した。

キーワード：シンガポール，就学前教育，課程政策，フレームワーク，主体性

## １．はじめに

グローバル化の進展に伴い，ますます激化する国際競争に勝ち抜くことに加え，持続可能な社会を創ることも各国にとって喫緊の課題となっている。これらの課題に対応すべく，自ら考え，意欲的に探究を行う態度，創造力や協調性などが育成すべき人間像の中身とされ，世界諸国では関連する教育改革が，1990 年代の後半から高等教育･中等教育を皮切りに行われてきた。近年，こうした教育改革がさらに進められてきており，初等教育や就学前教育における子どもの主体的な学びを促す政策的動向が世界諸国で相次いでいる。

その一例として，日本では平成 29 年度に行われた就学前教育に対する改革が挙げられる。知識基盤社会の進展に対応し，持続可能な社会を作るために，日本では就学前教育実践においては，子どもたちに感じたり，気づいたり，試行錯誤を重ねることなど豊かな体験を保障することを通じて，より良い生活を営もうとする心情･意欲･態度の育成が教育の目標とされた。また，幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整えることが就学前教育の基本と定められている [1)]。



李　霞*E-mail: k-lee@sumire.ac.jp

日本における就学前教育改革を促した背景には，2000 年代以降，度々日本社会を悩ませた PISA ショック [2]及び PISA の学力調査において露呈した生徒の学習意欲の低さ [3]があったことが否定できない。これらのことは，就学前教育から主体的で意欲的に学習活動に取り組める態度の育成が注目されるきっかけとなった。

他方，同じアジアに位置しながら，PISA の学力調査において常に好成績をとり続けているシンガポールは，世界諸国の注目の的となっている [4]。シンガポールでは人材が唯一の資源と認識され，独立当初から教育に重点を置いた政策をとり続けてきた。また，2020 年度の国の教育費は国防費に次ぐ高い予算割合とされるほど [5]，人材育成に手厚い政策的な保障をする国でもある。シンガポールでは，長い間，就学前教育は主に小学校の入学前準備段階と見なされ，教師中心の詰め込み教育が主流であった [6]。一方で近年，創造性，批判的思考，生涯学習への情熱を持つ学習者の育成が目指され，就学前教育における「遊び」といった幼児の体験を通した学びの重要性が認識されるようになった [7]。こうしたシンガポールの就学前教育の方向性は日本における就学前教育改革の目標との親和性が高いゆえか，2000 年以降，日本ではシンガポールの就学前教育に対する注目が高まりつつある。

2000 年以降，シンガポールの就学前教育については，主に池田充裕，埋橋玲子，李，臼井智美，坂井武司らによる先行研究が見られる。これらの研究は，就学前教育の政策的変遷を論じたり，シンガポールにおける就学前教育の概況を言及したり，就学前教育改革を促した背景を探ったり，質保証の観点から就学前教育・保育について考察したり，就学前教育のカリキュラムの枠組みに対する分析を行ったり，さらに，教育の質保証と教師教育の関連について議論したりするものである [8]。これらの先行研究は，今日のシンガポールの就学前教育の現状をはじめ，グローバル時代におけるシンガポール就学前教育のあり方を認識する上では大いなる示唆を与えるものである。しかしながら，教育制度や政策の転換がいかに教育現場や実践に展開されているのかを示しておらず，シンガポールの就学前教育改革における課題を十分に見出すことができないという限界が指摘できよう。

そこで，今日のシンガポールにおける就学前教育改革の課題を探る一歩として，本研究はとりわけ，就学前教育改革の理想が教育現場でのカリキュラムの編成にどう反映されているのかを明らかにすることを目的とする。そのために，本研究において，第 2 節では，シンガポールの就学前教育における近年の動向を概観し，第 3 節では，現行の就学前教育カリキュラムの特徴を探る。第 4 節では，フィールド調査で得たデータに基づき，政策の方向性がいかに教育現場でのカリキュラム編成に反映されているのかを見ていく。第 5 節では，これまでの内容を踏まえ，シンガポールの就学前教育の現状と存在している課題の究明を試みる。

## ２．就学前教育における近年の動向

周知のとおり，学歴主義，教育熱心な国として知られているシンガポールでは，能力別クラス編成が初等教育という早い段階から導入されており，幼少期から競争意識を植え付ける極端な選抜主義的色彩を伴う教育システムが導入されている。国民に教育を受ける機会を平等的に保障しようとしておらず，限られた資源を国の発展に貢献できる人材育成に有効利用するための政策を徹底してきた当国では，グローバル化の進展に対応し，生き残りと先進性の維持をかけた戦略として 1990 年代の後半から教育改革

が推進されてきた[9]。従来のような学習者のニーズ・関心を無視し，ひたすら受験のための教育活動の弊害が認識され，学習者の知的好奇心・情熱・勇気を養うことを目指した教育改革は，近年，就学前教育段階にも広がりつつある。

シンガポールでは就学前教育の機関としてKindergarten（幼稚園相当）とChild Care Centres（保育園相当）がある。しかし，長い間，就学前教育が私事と見なされていたため，2013年まで公立の幼稚園や保育園がなく，すべては政府関連部署の許可を得た宗教団体や社会団体など民間によって運営されていた。また，日本の『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』のように，就学前教育に関する統一した手引きもなく，幼稚園や保育園の教育内容や教育方法については，各園独自の方針で展開される経緯があった。

こうした状況は2000年代に入ると一変した。2000年に，MOE（Ministry of Education:シンガポールの教育省）は「就学前教育の期待目標」を公布し，①Know what is right and what is wrong（何が正しく，何が間違っているのかを知る），②Be willing to share and take turns with others（進んで他人と共有し，きまりを守って交流する），③Be able to relate to others（他人との関係づくりができる），④Be curious and able to explore（好奇心をもち，探究できる），⑤Be able to listen and speak with understanding（理解しながら，聞き・話しができる），⑥Be comfortable and happy with themselves（他人とともに快適で幸せに生活できる），⑦Have developed physical co-ordination and healthy habits（身体の協調と健康的な生活習慣を身につける），⑧Love their families, friends, teachers and school（家族，友人，教師，幼稚園を愛する）など，8つの具体的な目標を示した[10]。この8つの目標からうかがえるように，就学前教育は従来の知識習得のための詰め込み教育と一線を画し，これからの社会をより良く生きていくために子ども一人一人の成長発達に焦点を当てるように舵が切られた。

その後，すべての子どもが平等に質の良い就学前教育を受けられることを目指して，2003年にMOEはシンガポールで初めてとなる就学前教育指導用のシラバス『Nurturing Early Learner－A Framework For A Kindergarten Curriculum in Singapore（幼い学び手を育てるーシンガポールのキンダーガーデンのためのカリキュラムの枠組み）』（以下，2003年『カリキュラム・フレームワーク』とする）を公布し，「生涯にわたって，学習を発展させていくために，考えて学び，学び考えるような子どもたちを育てる」ことを幼稚園教育の目標とし，就学前教育の役割は「学びに対する熱意の育成」とされた[11]。また，就学前教育の学習領域を以下の6つ，即ち，①Aesthetics and creative expression（美学と創造的表現），②Environmental awareness（環境意識），③Language and literacy（言語とリテラシー〈読み書き能力〉），④Motor skills development（運動技能の発達），⑤Numeracy（数量・計算能力），⑥Self and social awareness（自我と社会的意識）と定めた。さらに，教師は幼児の活動を指導する際に遵守すべき原則として①Holistic development and learning（全面的発達と学び），②Integrated learning（統合的な学び），③Active learning （能動的な学び），④Supporting learning（学びの支援），⑤Learning through interactions（相互関係を通した学び），⑥Learning through play（遊びを通した学び）と示されている[12]。学習領域の区分及び指導原則からも見えるように，子どもたちが学習活動の主体と位置づけられ，教師は子どもたちの学習活動がスムーズに展開されるためのサポート役と想定されているのである。

2012 年になると，2003 年『カリキュラム・フレームワーク』が改訂され，新しく公布された 2012 年『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore（幼い学び手を育てるーシンガポールのキンダーガーデンのためのカリキュラムの枠組み）（以下，2012 年『カリキュラム･フレームワーク』と称する）』が，幼稚園及び保育園の３歳以上児の就学前教育に適用されることとなった。

## ３．現行の就学前教育カリキュラムの特徴

2012 年『カリキュラム・フレームワーク』の冒頭に「Our Belief and Principles（我々の信念と原則）として「Children are Curious, Active and Competent Learners（子どもたちは好奇心が強く，活発で有能な学習者である）」と述べられている。また，「Desired Outcomes of Education（望ましい教育の目標）」として，①A confident person（自信のある人），②A self-directed learner（自発的な学習者），③An active contributor（積極的な貢献者），④A concerned citizen（社会に関心を示す市民）の育成と示されている [13]。これらの内容から，就学前教育の目標においては，子どもたちに学習に対する熱意を持たせることに留まらず，熱意が行動に現れ，積極的に学習するための行動を自らとる主体性に加え，シンガポールを愛し，社会へ貢献する意識の育成まで視野に入れられていることが読み取れる。

学習領域に関しては，2003 年『カリキュラム・フレームワーク』と同様に，6 つの領域からなっており，2003 年『カリキュラム・フレームワーク』で示されている「Environmental awareness（環境意識）」・「Self and social awareness（自我と社会的意識）」をそれぞれ，「Discovery of the World（世界の発見）」・「Social and Emotional Development（社会的および情緒的発達）」へ変更された以外，領域名もそのまま継承されている。

変更した上述の二箇所を詳しく見ていくと，「Environmental awareness（環境意識）」は子どもたちに，周りの自然環境や人工世界に関する知識を習得させることに焦点を当てていた。それに対して，変更後の「Discovery of the World（世界の発見）」は，子どもたちが様々な道具や材料などを使って身近な環境について知り，様々な情報源から情報を収集･記録･表現することや，個人の経験と学んだことについて発信するなど，単に環境に関する知識の習得だけではなく，環境や身近な世界を知るための子どもの主体的で探究的な活動が重視されている。他方，「self and social awareness」においては，主に社会生活を円滑に送るために必要な社会的価値やルールの習得，及び他者と協調するスキルの習得を重視していた。それに対して，変更後の「Social and Emotional Development」においては，子どもたちに肯定的な自己概念を形成させること，自身の幸福のために自己認識・自己管理スキルを身につけさせること，他者と協調する力を持たせ，責任ある意志決定や行動をとれることなど，個としての子どもの主体的な活動がより求められていることが判明した [14]。

なお，2012 年『カリキュラム・フレームワーク』に示されている 6 つの学習領域のそれぞれの到達目標を以下に示しておく（表 1）。さらに，2012 年『カリキュラム・フレームワーク』において，質の高い幼稚園のカリキュラムで教育と学習を導く 6 つの原則を iTeach（この 6 つの原則の頭文字）として示されている部分（図 1）にも注目に値する。これは 2003 年『カリキュラム・フレームワーク』において示されていた，教師は幼児の活動を指導する際に遵守べき原則

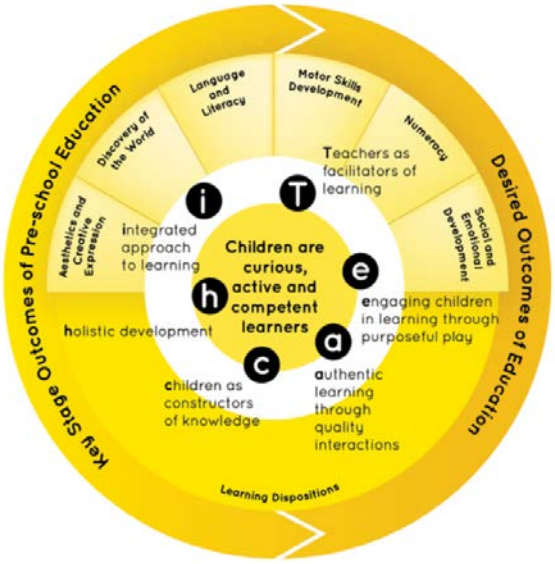
表 1. 2012 年『カリキュラム・フレームワーク』における学習領域の到達目標

| | |
|---|---|
| Aesthetics and Creative Expression<br>美学と創造的表現 | ・Enjoy art and music and movement activities<br>・Express ideas and feelings through art and music and movement<br>・ Create art and music and movement using experimentation and imagination<br>・Share ideas and feelings about art and music and movement<br>・芸術と音楽と運動活動を楽しむ<br>・芸術と音楽と動きを通してアイデアや感情を表現する<br>・実験と想像力を駆使して芸術と音楽と動きを創り出す<br>・芸術や音楽，動きについての考えや気持ちを共有する |
| Discovery of the World<br>世界の発見 | ・Show an interest in the world they live in<br>・ Find out why things happen and how things work through simple investigations<br>・Develop a positive attitude towards the world around them<br>・住んでいる世界に興味を示す<br>・簡単な調査で，なぜ起こるのか，どのように機能するのかを知る<br>・周囲の世界に対して前向きな姿勢を育む |
| Language and Literacy<br>言語とリテラシー | ・Listen for information and enjoyment<br>・Speak to convey meaning and communicate with others<br>・Read with understanding and for enjoyment<br>・ Use drawing,mark making,symbols and writing with invented and conventional spelling to communicate ideas and information<br>・情報と楽しみを聞く<br>・意味を伝え，他の人とコミュニケーションをとるために話す<br>・理解して楽しんで読む<br>・アイデアや情報を伝えるために，描画，マーク作成，記号，および発明された従来のスペルによる書き込みを使用する |
| Motor Skills Development<br>運動技能開発 | ・Enjoy through participation in a variety of physical activities<br>・Demonstrate control,coordination and balance in gross motor tasks<br>・Demonstrate control and coordination in fine motor tasks<br>・Develop healthy habits and safety awareness at home,in school and at public places<br>・さまざまな身体活動に参加して楽しむ<br>・総運動課題における制御，調整，バランスを示す<br>・細かい運動課題における制御と調整を示す<br>・家庭，学校，公共の場で健康的な習慣と安全意識を育む |
| Numeracy<br>計算能力 | ・Recognise and use simple relationships and patterns<br>・Use numbers in daily experiences<br>・ Recognise and use basic shapes and simple spatial concepts in daily experiences<br>・単純な関係やパターンを認識して使用する<br>・日常の経験で数字を使う<br>・日常の基本的な形やシンプルな空間概念を認識し，活用する |
| Social and Emotional Development<br>社会的および感情的な発達 | ・Develop an awareness of personal identity<br>・Manage their own emotions and behaviours<br>・Show respect for diversity<br>・Communicate,interact and build relationships with others<br>・Take responsibility for their actions<br>・個人のアイデンティティの意識を高める<br>・自分の感情や行動を管理する<br>・多様性を尊重する<br>・他者とのコミュニケーション，交流，関係構築<br>・彼らの行動に責任を持ちなさい |

出典：2012 年『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』を参照に筆者作成

に相当する部分である。図 1 からわかるように，iTeach（指導原則）の中核に据えているのは「children are curious, active and competent learners（子どもたちは好奇心が強く，活発で有能な学習者である）」というスタンスである。このスタンスのもと，教師が指導において守らなければならない原則は①Integrated approach to learning（学びへの統合的なアプローチ），②Teachers as facilitators of learning（教師は学びのファシリテーター

図１．iTeach の具体内容




出典：2012 年『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』

である），③engaging children in learning through purposeful play（子どもは遊びを通して学ぶ），④authentic learning through quality interactions（質の高い相互関係を通した本質的な学びの実現），⑤children a constructors of knowledge（子どもは知識の構築者である），⑥holistic development（全面的な発達）となっている[15]。

以上，2012 年『カリキュラム・フレームワーク』における各学習領域の到達目標及び子どもの活動における教師の守るべき指導原則の iTeach から，子どもこそ，学習活動の主体であり，教師の役割は子どもたちが主体的に質の高い学習活動を展開し，その活動を充分に楽しめるように，必要な環境を用意したり，アドバイスを行ったりすることと限定されていることがわかる。つまり，教師は人的環境と想定されているのである。

このように，全体的に見るとき，2012 年『カリキュラム・フレームワーク』は，2003 年『カリキュラム・フレームワーク』において打ち出された子ども主体の教育思想を継承し，発展したものと見て取れる。なお，2012 年『カリキュラム・フレームワーク』に示されている 6 つの学習領域の中，とりわけ，「Discovery of the World」（「世界の発見」以下，DOW とする）という領域においては，子どもと周りの生活世界との関わりが重視され，彼らの意欲的で主体的な探究活動が求められていることから，以下，この領域を取り上げ，教育課程政策の構想に対する分析を進めていきたい。

表 1 から明らかであるように，「DOW」という領域の学習においては，３つの目標が掲げられている。即ち，①住んでいる世界に関心を示すこと，②簡単な調査を通じて，物事がなぜ起こるのか，どのように機能するのかを見つけること，③周りの世界に対して前向きな態度を育むこと，である。この学習分野に関連する必要な知識，スキルの習得，及び望ましい意欲態度の育成のために，教師の支援のもとで子どもの主体的な探求活動の領域をさらに①人と文化（家族や友人，コミュニティ，多文化主義，多様性＜例：民族性，宗教，年齢，能力，職業＞），②自然で構築された環境（植物，動物，天然資源＜水，空気，岩＞，材料の特性，乗り物，自然及び人工物），③場所とスペース（身近な環境＜自宅，幼稚園，近所，建物，興味のある場所＞，国の他の部分，世界の他の部分，シンプルなマップ），④時間とイベント（時間の経過に伴う変化の概念＜過去，現在，未来，昼，夜＞，天気，ライフサイクル，成長，歴史及び現在の重要なイベントなど），⑤発明と技術（物事がどのように機能する

か，情報通信技術，発明者と発明のプロセス）に分けられている。また，教師には，子どもの主体的な探究活動を援助する際に，子どもが自らの感覚や意識に従い，①さまざまなツール, 機器, リソースを使用して，環境について調べること，②さまざまなリソースから情報を収集すること，③調査結果をさまざまな方法で記録し，表現すること，④個人の経験と自らが学んだことについて話せるように，有意義で関連性の高い内容を提供することが求められている[16]。

このように，教育課程政策においては，「DOW」という領域における学習は，子どもの日常生活に密接に関連し，子どもたちが様々な道具や材料などを使って身近な環境について調べ，様々な情報源から情報を収集し, 記録すること, 自らの経験や学んだことについて発信するなど，単に環境に関する知識の習得だけではなく，環境や身近な世界を知った上で，自分なりに発信できるよう主体的で探究的な活動が重視されていることが明らかとなった。なお, この領域での探究活動における環境とは，子どもたちの自宅, 学校, 家族, 近所だけではなく，文化, イベント, さらにより広い世界が含まれていることも明らかである。

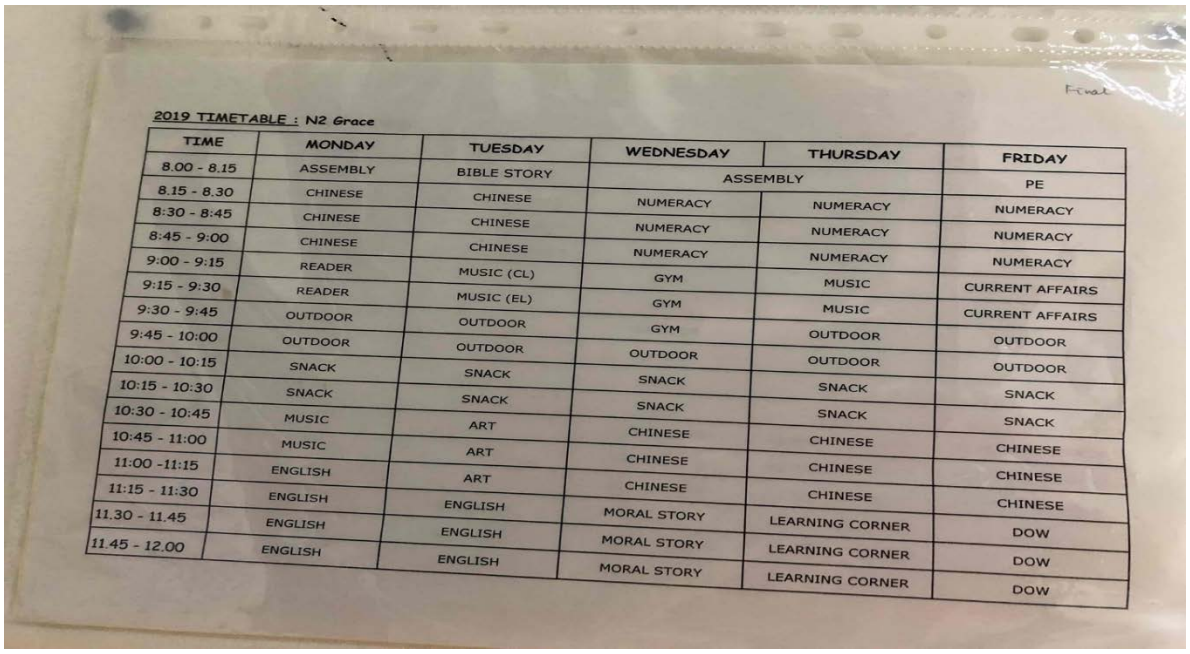
## ４．幼稚園におけるフィールド調査

本節においては，教育課程政策の構想がどのように就学前教育現場でのカリキュラム編成に反映されているのかを見ていく為に，筆者の行ったシンガポール A 地区 Bethesda (AMK) Kindergarten（以下 BK とする）に対するフィールド調査で得たデータを基に分析を進める[17]。

A 地区にある BK は，1986 年から MOE に登録されているキリスト教の幼稚園であり，二部制をとっている園である。2020 年 3 月現在，N1（2 歳児），N2（3 歳児），K1(4 歳児), K2(5 歳児)の各 3 クラスで合計 12 クラスの 180 名の子どもが，12 名の教師と 4 名のアシスタント講師の指導のもとで伸び伸びと園生活を楽しんでいる。BK は，キリスト教の環境のもとで子どもたちの学習を楽しく，刺激的で有意義なものにすることを目的としている。子どもたちが神について学び, 成長すること･知ることの喜びを自ら発見する手助けのために, 幼稚園が「愛」: 神の愛が教えられ，生きる場所,「レジリエンス」: 子どもが困難，挫折，失望，失敗から素早く回復する能力を身につける場所,「誠実さ」: 子どもが正直であり，揺らぐことのない強い道徳性を持つことを学ぶ場所,「好奇心」: 子どもが知り，発見し，学びたいという強い欲求を獲得する場所と設定され，政府の定められている教育内容を提供している。カリキュラムについては, 政府の規定に従い 6 つの領域に沿って，体験学習を中心としている。一年間を 4 学期に分け，毎学期は 10 週間で構成される。

図 2 は午前中の N2 クラス（3 歳児）の時間割表である。登園後 15 分間のアセンブリの時間や，9 時半からの 30 分間の室外活動の時間，10 時から 30 分間のおやつの時間を除き, 3 歳児であっても教科ごとの学習となっていることがわかる。教科学習の中, 中国語と英語, さらに算数, 学習コーナーといった知識を習得するための時間が大半を占めており，就学前教育における知育重視の色彩が強く感じられる。また，「MORAL STORY（道徳物語）」の時間も設けられており, この時間においては, 親の言うことを素

図２．BK の時間割表（N2 クラス）



2019 TIMETABLE : N2 Grace

| TIME | MONDAY | TUESDAY | WEDNESDAY | THURSDAY | FRIDAY |
|---|---|---|---|---|---|
| 8.00 - 8.15 | ASSEMBLY | BIBLE STORY | ASSEMBLY | | PE |
| 8.15 - 8.30 | CHINESE | CHINESE | NUMERACY | NUMERACY | NUMERACY |
| 8:30 - 8:45 | CHINESE | CHINESE | NUMERACY | NUMERACY | NUMERACY |
| 8:45 - 9:00 | CHINESE | CHINESE | NUMERACY | NUMERACY | NUMERACY |
| 9:00 - 9:15 | READER | MUSIC (CL) | GYM | MUSIC | CURRENT AFFAIRS |
| 9:15 - 9:30 | READER | MUSIC (EL) | GYM | MUSIC | CURRENT AFFAIRS |
| 9:30 - 9:45 | OUTDOOR | OUTDOOR | GYM | OUTDOOR | OUTDOOR |
| 9:45 - 10:00 | OUTDOOR | OUTDOOR | OUTDOOR | OUTDOOR | OUTDOOR |
| 10:00 - 10:15 | SNACK | SNACK | SNACK | SNACK | SNACK |
| 10:15 - 10:30 | SNACK | SNACK | SNACK | SNACK | SNACK |
| 10:30 - 10:45 | MUSIC | ART | CHINESE | CHINESE | CHINESE |
| 10:45 - 11:00 | MUSIC | ART | CHINESE | CHINESE | CHINESE |
| 11:00 -11:15 | ENGLISH | ART | CHINESE | CHINESE | CHINESE |
| 11:15 - 11:30 | ENGLISH | ENGLISH | MORAL STORY | LEARNING CORNER | DOW |
| 11.30 - 11.45 | ENGLISH | ENGLISH | MORAL STORY | LEARNING CORNER | DOW |
| 11.45 - 12.00 | ENGLISH | ENGLISH | MORAL STORY | LEARNING CORNER | DOW |

出典：2019 年 BK 時間割表

直に聞くこと，思いやりを持つこと，マナーを守ることなどに関する教育を行っている[18]。他方，「CURRENT AFFAIRS（時事）」[19]や「DOW」などの時間も設けられており，小さいうちから子どもたちに身近な生活世界に注目させ，社会や国に対する関心を持たせることを意図していると見て取れる。

では，子どもが学習の主体であるという立場を持つ 2012 年『カリキュラム・フレームワーク』の考えがどのように，BK のカリキュラム編成に反映されているのかを明らかにするために，次は，BK の 2019 年度カリキュラム・フレームワークに示されている DOW という学習領域を取り上げてみていく。図 3 のように，BK のカリキュラム・フレームワークにおいて，DOW という学習領域における学習目標は以下の三つ，即ち「Learning Goal 1:Show an interest in the world we live in」，「Learning Goal 2:Investigate why things happen and how things work」，「Learning Goal 3:Develop a positive attitude towards the world around them」と掲げられており，それぞれは 2012 年『カリキュラム・フレームワーク』に示されている DOW の学習到達目標である「Show an interest in the world they live in（住んでいる世界に興味を示す）」，「Find out why things happen and how things work through simple investigations（簡単な調査を通じて，物事がなぜ起こるのか，どのように機能するのかを見つける）」，「Develop a positive attitude towards the world around them（周りの世界に対して前向きな姿勢を育む）」とほぼ一致していることが明らかである。

図 3 に示されている内容を詳しく確認していきたい。まず，「Learning Goal 1」に注目しておこう。そこでは，Nursery 1（2 歳児）の到達目標において，「Look, touch, lift, listen」，「Begin to verbalise what was observed」，

図３．BK のカリキュラム・フレームワークにおける DOW の学習領域の到達目標

Domain: Discovery of the World

| Learning Goals | Nursery 1 | Nursery 2 | Kindergarten 1 | Kindergarten 2 |
|---|---|---|---|---|
| | Knowledge, skills disposition (Key indicators to be observed in children's learning and development) | | | |
| Learning Goal 1:<br><br>Show an interest in the world we live in. | 1.1 Use 5 senses to observe and explore materials and things around them:<br>• Look, touch, lift, listen and explore materials encountered.<br>• Begin to verbalise what was observed.<br>• Begin to ask questions and discover with teacher's help.<br>• Use tools to help focus on an object and define the characteristics they are trying to describe. Example: observe objects through a magnifying glass. | 1.2 Observe and ask questions about the living and non-living things around them. | 1.3 Compare and talk about their observations and findings.<br><br>1.4 Make simple recording of the observations through drawing or writing. | 1.5 Gather information from a variety of sources to find out why things happen and how things work.<br><br>1.6 Make simple recordings of their observations and findings through drawing, making 3-dimensional models and writing. |
| Learning Goal 2:<br><br>Investigate why things happen and how things work. | 2.1 Investigate through Home-science activities.<br>• Observe changes in textures, colours and taste of food to reach and expected result.<br>• Begin to tell what happen and verbalize what they observed. | 2.2 Use simple tools and equipment for investigations to find out why things happen and how things work.<br><br>2.3 Know the similarities and differences between living and non-living, places and events. | 2.4 Be aware of changes and patterns that occur in the environment.<br><br>2.5 Ask questions to seek answers by gathering information from different sources.<br><br>2.6 Make simple recordings of findings through drawing or writing. | 2.7 Conduct simple investigations to find out why things happen and why things work.<br><br>2.8 Record changes over time through drawing or writing.<br><br>2.9 Make predictions of outcomes with simple reasoning.<br><br>2.10 Describe and present findings of simple investigations in different ways. |
| Learning Goal 3:<br><br>Develop a positive attitude towards the world around them. | 3.1 Be curious and aware of their environment and their part in keeping the environment clean.<br><br>3.2 Show care and respect for living things in the environment. | 3.3 Be aware of their role and responsibilities in keeping the environment clean and green.<br><br>3.4 Show care and respect for living things in the environment. | 3.5 Be aware of the need to conserve natural resources in their everyday lives by reducing consumption, reusing and recycling. | 3.6 Be aware of the consequences of man's actions on the environment. |

出典：2019 年 BK カリキュラム・フレームワーク

「ask question」,「discover with teacher's help」,「use tool」,「describe」といった表現が盛り込まれていることが確認できる。また，Nursery 2（3 歳児）の場合は,「Observe and ask questions」という文言が記されている。Kindergarten 1（4 歳児）の場合は,「Compare and talk about their observations and findings」,「make simple recording of the observations through drawing or writing」などの表現や，Kindergarten 2（5 歳児）の場合は,「gather information」,「make simple recordings of their observations and findings through drawing」などが明示されている。これらの表現から, 子どもたちが自ら観察し･触れ合うこと, 質問し･表現すること, 聴き合い･話し合うこと, 道具を使って探究し・記録を作成することといった，主体的に活動に従事することを求められており，子どもこそ学習活動の主

体であると想定されていることが明白であろう。なお, 子どもの主体的な活動を尊重する姿勢が,「Learning Goal 2」と「Learning Goal 3」に示されている内容からも確認できる（紙面上の制限から，ここでの詳述を割愛する)。

図 3 の BK 全体のカリキュラム・フレームワークに示されている DOW の学習目標はいかに, 学年別, そして学期ごとに反映されているのかを明らかにするために，表 2 を手掛かりに見ていく。

表 2 は BK の学年別 DOW の学習テーマ及び到達目標を示すものである。まず, 第一学期について見てみよう。そこでは, Nursery 1 で示されている学習のテーマは「All about Myself (自身に関すること)」となっており, 体のそれぞれの部分や性別を知ることや, 家族，自身の感情（喜び・怒り・疲れ・悲しみ) に加え, 自身の好き嫌いの傾向を知ることも含まれている。Nursery 2 の場合は同じく「All about Myself（自身に関すること)」となっているが，自己意識・体の部位・自身の感覚・個人衛生を具体的に取り扱っている。Kindergarten 1 での学習テーマは「家族・五感」となっており, Kindergarten 2 では「人間の体・消化器系・臓器・骨格系・脳」となっている。このように，Nursery 1 から Kindergarten 2 まで同じく自身に関することについての学習であっても，学年が上がることに従い学習内容の深さとともに、範囲の広さも増していく傾向が見えてくる。同じ傾向は第二学期の学習テーマからも確認できる。第二学期の学習テーマとして, Nursery 1 の場合は「My Favourite Food（好きな食べ物)」となっており，Nursery 2 の場合は「The Clothes We Wear（私たちが着る服)」となっている。Kindergarten 1 では「Homes・My Neighbourhood（家・近所)」となっており，Kindergarten 2 では「Occupations—the work people do（職業)」となっている。このように, 第二学期のテーマからも共通している傾向が見えてきており, 即ち, 子どもたちに自分自身について知ってもらうことをはじめ，少しずつ自分自

表 2. BK における学年別・学期別 DOW の学習テーマ及び到達目標一覧

| | Nusery1 | Nusery2 | Kindergarten1 | Kindergarten2 |
|---|---|---|---|---|
| Term1 Themes | ・All about Myself: basic parts of the body,gender<br>・My Family<br>・My Feelings: happy,sad,angry,tired,sick<br>・My Likes/Dislikes | ・All About Myself<br>-Self-awareness<br>-Parts of the body<br>-My senses<br>-Personal hygiene | ・My Family<br>・Five Senses | ・The Human Body<br>・Digestive System<br>・Organs<br>・Skeletal System<br>・Brain |
| DOW | ・Using sensory play to promote looking,listening, touching,feeling&tasting skills<br>・Understand the concept of "Family"through observation/comparison<br>・Discover the expressions tied to the different feelings<br>・Children will show interest in the world around them | ・Appreciate "Iam special"<br>・Develop an awareness of one's traits,strength<br>・Identify the body parts that correspond with the 5 senses<br>・Importance of personal care and hygiene | ・Appreciate and understand the functions of the 5 senses<br>・Understand the difference between the 5 senses and the sense organs<br>・Explore how our senses help us in our lives<br>・Observe,compare/contrast characteristics of family members/types of families | ・Knowledge of some common chronic diseases related to organs<br>・Observe and investigate-pig's heart<br>・Dental health care talk by dentist<br>・Experience a dental check-up session |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Term2 Themes | ・My Favourite Food(fruit and vegetables) | ・The Clothes We Wear<br>・The Food We Eat | ・Homes<br>・My Neighbourhood | ・Occupations--the work people do |
| DOW | ・Using sensory play to promote looking,listening,touching,feeling&tasting skills(oobleck,water beads during water play,goop etc)<br>・Children will show interest in the world around them | ・ where clothes and food come from<br>・clothes for different weather conditions<br>・baking/fried pancake:changes before and after (Observation of cook Vs uncooked food)<br>・places-supermarket,hawker center,fast food,coffeeshop,restuarant | ・Similarities/differences /patterns in types of homes<br>・Compare/talk about-unique homes of the world<br>・Parts of a home and their purpose<br>・types of materials used to build homes<br>・Ask questions in small group discussions and record findings on types of homes<br>・Explore places and identify people in the neighbourhood<br>・Read a simple map | ・Roles of personnel who help us in school<br>・Common occupations of people who are helpful in the community<br>・Interview-social worker |

出典：2019 年 BK カリキュラム・フレームワークに基づいて筆者整理

身を取り巻く生活世界へ注目を向かせるように学習内容が考案されているのである。ここでも，学年が上がるに従って，学習内容の範囲が広がりつつ，その深みも増していくことが確認できる。

第一学期・第二学期での学習テーマのこうした特徴のほかに，DOW で学習活動が展開される際に，「looking」・「listening」・「touching」・「observation/comparison」・「Ask question」・「Interview」といった子どもが自ら活動に参加し，活動に従事することを求める表現も多く確認できる。ここからも，従来のような教師による詰め込みの教育が否定され，学習活動の主導権は子どもにあるということに対する認識がうかがわれる。

表 3 は，学年別・学期別 DOW の学習テーマをどのように週ごとの教育活動で実施されているのかを示すものである。まず，第一学期において示されている週ごとのテーマから，子どもたちに自身の体のそれぞれの部位を知ること，感情について認識すること，家族や五感について学習することを踏まえ，最終的には自身を大事にすることの大切さを理解できるように学習の目標が設定されていることが容易に読み取れる。他方，第二学期のテーマから，身近にある動物，毎日の食事，いつも着ている服，自宅にある各部屋の役割からスーパーマーケットや病院など身近にあるコミュニティに注目するなど，子どもたちが自身の生活から身近な生活世界へ視野を広げるように意図されていることも明らかである。さらに，第二学期での学習活動において，※で書かれている注意書きには，「安全性を重んじることや，運動技能と学習への関心を喚起することに留意する」こと，「視覚的で，体験的な」活動を充実すること，「アクティビティを重んじ，ワークシートを少なめ」にすることなどからも，従来の教師による注入式教授と一線が画されており，子どもたちに実際の教育活動に参加させ，経験を獲得させることに重点が置かれていることがわかる。

このように，BK の第一学期及び第二学期で行われた DOW の教育活動から，子どもたちに自分自身について認識させることからはじめ，次第に身近にある家やコミュニ

表３．BK における学期ごとの DOW 学習内容（一部）

| | Term 1 | Term 2 |
|---|---|---|
| N 1 | ・Myself & Feelings<br>W1：gender<br>W2：head<br>W3：hands<br>W4：legs<br>W5：hygiene<br>W6：happy<br>W7：sad<br>W8：angry<br>W9：tired<br>W10：revision | ・Animals (wild/farm)<br>W1：habitat<br>W2：land animals<br>W3：farm animal 1<br>W4：farm animal 2<br>W5：farm animal 3<br>W6：farm animal 4<br>W7：wild animal 1<br>W8：wild animal 2<br>W9：wild animal 3<br>W10：wild animal 4<br>*cut down 1 animal in each category to touch on safety or include in each lesson*Focal Points – Motor Skills and arouse learning interest |
| N 2 | ・More about myself<br>W1：eyes<br>W2：mouth<br>W3：nose<br>W4：ears<br>W5：hands and fingers<br>W6：legs and toes<br>W7：body<br>W8：care for my body<br>W9：revision 1<br>W10：revision 2 | ・Food and Clothes<br>W1：types of Food<br>W2：meat<br>W3：vegetables<br>W4：poultry/fungi<br>W5：healthy eating<br>W6：shirt/blouse<br>W7：pants/shorts/skirt<br>W8：jacket etc<br>W9：shoe/head wear<br>W10：revision<br>*visual, experiential ad hands on.<br>*activities , less worksheet |
| K 1 | ・My Family & 5 Senses<br>W1：assessments<br>W2：family tree<br>W3：my parents<br>W4：my siblings<br>W5：sight<br>W6：hearing<br>W7：smell<br>W8：taste<br>W9：touch<br>W10：revision | ・Home & Neighbourhood<br>W1：is a house a home<br>W2：kitchen/living room<br>W3：bedroom/toilet<br>W4：design my home<br>W5：homeless<br>W6：what form a community<br>W7：who are in my community (school)<br>W8：market vs supermarket<br>W9：clinic vs hospital<br>W10：hawker centre vs food court<br>*Include safety in each occupation |
| K 2 | ・Human Body<br>W1：4 systems<br>W2：Digestive<br>mouth & esophagus<br>W3：stomach<br>W4：intestines<br>W5：skeletal : bone<br>W6：circulatory: heart<br>W7：circulatory: blood<br>W8：nerve – brain<br>W9：nerve – skins<br>W10：care for your body | ・Occupation<br>W1：introduction<br>W2：teacher<br>W3：doctor/nurse<br>W4：food seller<br>W5：cleaner<br>W6：cook/chef<br>W7：police<br>W8：fire fighter<br>W9：construction worker or baker<br>W10：revision<br>*Include safety in each occupation |

出典：2019 年 BK カリキュラム・フレームワークに基づいて筆者整理

ティなどの場所，さらに住んでいる世界へ関心を向かせるための内容構成となっていることが判明した。それだけではなく，周囲の世界に対する理解を深めるために，周囲の環境に対する観察・比較といったスキルを発揮し，その観察や比較の結果を表現するといった重要なプロセスを辿ることなど，子どもたちの主体的で探究的な活動が重視されていることも判明した。つまり，フィールド調査の結果から，幼稚園における教育

目標・教育内容の設定においては，教育課程政策に忠実に沿っていることがわかった。

## ５．まとめ及び考察

以上に述べてきたように，2000 年以降，シンガポールの就学前教育政策には大きな変革が見られた。即ち，小学校の入学前準備段階と見なされ，教師中心の詰め込み教育に対する考え方が是正された。また，教育の目標は学習者である子どもたちの発達に焦点を合わせ，子どもたちがより良い社会生活を送るために必要な態度やスキルを身につけることとされ，そのために子どもたちの主体的な学びが重視されるようになった。

そして，BK に対するフィールド調査から，教育課程政策において子どもたちが学習活動の主体であるという教育に対する考え方は，就学前教育現場でのカリキュラム編成にもきちんと反映されていることが判明した。確かに，本論文で取り上げている就学前教育現場は BK 一箇所に過ぎないが，2012 年版『カリキュラム・フレームワーク』は，シンガポール全国の幼稚園及び保育園の 3 歳以上児の就学前教育に適用され，教育現場でのカリキュラム編成の際に依拠すべきものとされている現状から，BK におけるカリキュラム編成の現状はシンガポールの就学前教育現場を代表しうる普遍的な事例といえよう。

このような変化が見られる一方で，シンガポールの就学前教育において，懸念すべき点も明らかとなった。即ち，BK の N2 クラス（3 歳児）の時間割表から，知的発達がまだ不十分な 3 歳児に対して，中国語と英語，さらに算数，学習コーナーといった知識を習得するための教育活動が進められている実状が確認されたことである。それに加え，「MORAL STORY」の時間も設けられており，この時間においては，望ましい価値を教師による説教も行っていることから，教師中心の詰め込み教育の弊害がいまだ根強く存在していることが示唆される。

教育熱心で，高学力を維持し続けてきたシンガポールでは，国際的競争に勝ち抜くために，国際社会で求められている学力を意識しつつ，教育改革を重ねてきた。しかし，長い間にわたって詰め込み教育が主流とされてきた故，いまだ詰め込み教育による弊害が根強く就学前の教育現場に残されていることが明らかとなった。今後，詰め込み教育の弊害が幼稚園教師の指導において具体的にどのような形で表しているかを究明することが，シンガポール就学前教育の課題解明につながるため，引き続き取り組みたいと考えている。

## 参考文献及び脚注

１）文部科学省『幼稚園教育要領の改訂について-主な改訂内容-』（平成 29 年 7 月）
seiganomori.hoikuen.to/wp/wp-content/uploads/2019/10/8.pdf アクセス：2021/12/01

２）「PISA ショック」とは，2000 年に経済協力開発機構（OECD）によって実施された国際的な学習到達度調査（PISA）において，ドイツの学力不振が明るみとなり，それが社会的に衝撃を与えた現象のことである。日本の場合，2003 年の PISA 調査において，読解と数学の得点が落ち込んでいたことで，日本にも「PISA ショック」といわれる現象を引き起こした。

３）国立教育政策研究所『OECD 生徒の学習到達度調査（PISA2018）』
nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf アクセス：2021/12 /01

東京都教育会『学ぶ意欲を引き出す教育を-OECDPISA 結果の考察を踏まえて』
t-kyoikukai.org/teigen06.html アクセス：2021/12 /01

４）文部科学省「国際算数・理解教育動向国際調査（TIMSS2019）結果の推移
mext.go.jp/content/20201208-mxt_chousa02-100002206-2.pdf アクセス：2021/12 /01

５）一般財団法人自治会国際化協会シンガポール事務所『シンガポールの政策（教育政策編）』2020 年 3 月 clair.org.sg/j/wp-content/uploads/2020/03/07_Kyoiku.pdf アクセス：2020/03 /10

６）李霞「シンガポールにおける就学前教育改革の動向及び課題―教育政策の変遷に焦点を当ててー」『滋賀短期大学研究紀要』第 44 号，pp.85-102，2017。

７）同上

８）池田充裕「シンガポールにおける幼児教育・保育の成立過程とその現状 ： 早期二言語教育の歴史と実践に着目して (記念講演)」『幼児教育史研究』第 4 巻，pp.47-60，2009。池田充裕「シンガポールーグローバリゼーション対応の幼児教育ー」，池田充裕・山田千田明編著『アジアの幼児教育:幼児教育の制度・カリキュラム・実践』pp.160-181，2006。高橋美由紀「シンガポールのバイリンガル教育とカリキュラム―幼稚園における英語と華語教育」『兵庫教育大学研究紀要（29）』pp.71-84，2006。埋橋玲子「シンガポールの幼児教育・保育(1)概況と背景」『同志社女子大学学術研究年報』 (67)，pp.57-67，2016。埋橋玲子「シンガポールの幼児教育・保育(2)質の認証システム SPARK に注目して」（研究ノート）『同志社女子大学現代社会学会現代社会フォーラム』（13)，pp.28-38，2017。埋橋玲子「シンガポールの幼児教育・保育(3)カリキュラムの枠組みに注目して」『同志社女子大学学術研究年報』(68)，pp.47-58，2017。李霞「シンガポールにおける就学前教育改革の動向及び課題―教育政策の変遷に焦点を当てて―」『滋賀短期大学研究紀要』第 44 号，pp.85-102，2017。坂井武司・赤井秀行「幼児教育における日本とシンガポールのカリキュラム比較に関する研究」『京都女子大学発達教育学部紀要』第 16 号，pp.21-30，2020。臼井智美・中橋美穂「教育の質保証と教師教育の連関―シンガポールの幼児教育者育成システムにみる「可視化」を手掛かりに―」『大阪教育大学紀要（総合教育科学）』第 67 巻，pp.39-53，2019。王林鋒「省察的実践力を育む国際教育実習カリキュラムの構築と実践：シンガポール国立教育学院教育実習生受け入れの事例に着目して」『教師教育研究』第 12 巻，pp.89-99，2019。

９）李霞，前掲論文，2017。

10）池田充裕，前掲書，161 頁，2006 年。

11）MOE，Singapore『Nurturing Early Learner－A Framework For A Kindergarten Curriculum in Singapore』2003.

12）同上

13）MOE，Singapore『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』2012.

14）MOE，Singapore『Nurturing Early Learner－A Framework For A Kindergarten Curriculum in Singapore』2003．MOE，Singapore『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』2012.

15）MOE，Singapore『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』2012.

16）同上

17）一回目のフィールド調査は 2018 年 8 月に，二回目に調査は 2019 年 3 月に，2020 年 3 月に電話による調査も行った。

18）インタビュー調査による。2019 年 3 月，シンガポール。

19）この時間は，子どもたち各自が幼稚園に持ってきた新聞記事の切り取りを，教室の壁面にある「時事欄」に張り出し，教員が順番にそれぞれの記事のことを子どもたちに紹介する時間である。やや説教的になっていることが授業観察で確認できた。2019 年 3 月, in BK,シンガポール。

本研究は JSPS 学術振興会科学研究費補助金（課題番号 18k13078）の助成を受けたものの一部である。